

月刊「ワークホームだより」1月号

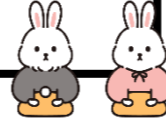
発行日:2022年 12月26日

ワークホーム高砂 〒676-0081 高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com

納豆工房なっとこちゃん 〒676-0082 高砂市菅根町1878-1 TEL(079)448-5400 FAX(079)448-5111

https://nattokochan.akarinoie.org/ E-mail natto_koubou@akarinoie.org



「生産量を維持し、良い商品を安定供給する」責任と覚悟

ワークホーム高砂施設長 齋藤 克己

12月4日、約1年間検討してきた「ワークホーム高砂クリーニング工場の理念」が、ゴトウ・アズ・プランニング社(以下「GOTO」)との間で合意に至りました。約20年間協業のスタイルをとってきましたが、「工場理念」という形で合意したのは初めてで、今後の運営を考えるうえでは大きな前進です。

「理念」の合意にあたり、法人としてオーソライズしておく必要がありました。10月20日には理事長のご意見をお聞きし、それを踏まえて10月24日の「GOTO経営会議」に臨み、最終調整を行いました。12月2日には、社会福祉法人あかりの家理事会において最終案を報告させていただき、全理事、監事の同意が得られ、12月4日の「GOTO経営会議」で最終合意の確認を安杖社長と行いました。理事長からは、「GOTOさんは『理念』を大事にする素晴らしい会社です。とてもいい内容で合意できましたね。」とのコメントをいただくとともに、「あかりの家としては②を一番に掲げたいところだけれど、企業と協業するうえではお客様第一に掲げることが大事なことです。」とのお話もありました。また、三木理事からは、「この内容で合意できるのはすごいですね」と、一定の評価もいただきました。

私は、今回の「理念」づくりの議論とおして改めてお客さんとワークホームとの関係について考える貴重な時間をいただいたと思っています。クリーニング工場にとっての「お客さん」は、タオルやシーツを使って下さるエンドユーザーの方々を指します。その方がいなければGOTOとして商売は成り立たず、ワークから利用者さんへの工賃を支払うことも出来なくなります。一方、福祉サービス事業所としてのお客さんは、「障害を有する利用者さん」であり、利用者さんがいなければワークホーム高砂の経営は成り立ちません。利用者さんが高齢化、重度化していく中で、いかに生産量を維持し、良質の商品を安定供給していくのか、ワークホーム高砂クリーニング工場には、「生産量を維持し、良質の商品を安定供給する」責任感と覚悟が今以上に必要となり、今後を考えるうえでも最大のテーマとなることは間違いないでしょう。

「理念」は事業の方向性を表し具現化しなければ意味がありません。ですから、今後の主要なテーマは、より多くの障害者の方に「ワークに来て働きたい！」と言ってもらえる事業所づくりができるかどうかということです。利用者さんにとって「働きたい」と思える事業所とはどのような条件が必要なのか。「人的な量と質」「物的な量と質」「適した作業環境」「労働の対価としての工賃」など、テーマは多様ですが、GOTOさんと協力しながらくじけず、諦めずに果敢に挑戦していきたいと思えます。

2023年は兎年、再飛躍をめざして職員一同がんばりますので、保護者会をはじめ関係各位のご支援とご協力をよろしくお願いします。

《ワークホーム高砂クリーニング工場の理念》

- ① ワークホーム高砂クリーニング工場は、生産量を維持し、お客様に良い品質の商品を安定的に供給します。
- ② ワークホーム高砂クリーニング工場は、障害を有する人たちが生き生きと働ける工場をめざします。
- ③ ワークホーム高砂クリーニング工場は、安全第一の工場運営に努め、助け合いと成長が実感できる職場環境づくりに努めます。

2022.12.04

《公休グループと1月・2月公休日》

| Aグループ | Bグループ |
|---|---|
| 今津さん、小南さん、瀬戸内さん、藤野さん、米田さん、永田さん、岸本さん、光宗さん、竹林さん、中岸さん、玉木さん、常峰さん、小林さん、大野さん、東西さん、福田さん、池上さん | 梅原さん、立岩さん、濱口さん、丸山さん、中村さん、松永さん、森崎さん、浅野さん、木田さん、棒谷さん、木澤さん、大内さん、船田さん、有瀬さん、森川さん、増田さん、福田(し)さん |
| 《1月公休日》 1(日)、2(月)、3(火)、8(日)、14(土) 15(日)、16(月)、22(日)、29(日) | 《1月公休日》 1(日)、2(月)、3(火)、8(日)、14(土) 15(日)、21(土)、22(日)、29(日) |
| 《2月公休日》 4(土)、5(日)、11(土)、12(日)、13(月) 19(日)、25(土)、26(日) | 《2月公休日》 4(土)、5(日)、11(土)、12(日)、18(土) 19(日)、25(土)、26(日) |
| ※ ワークホーム高砂クリーニング作業については、水曜日は17時まで作業をおこないます。また、工賃支給日(毎月第2水曜日)については、16時30分まで作業を行いますので、お迎えの方は17時にお願いします。 | |
| ※ 1月28日(土)はレク日を設定しています。防災総合訓練を予定しています。9時通所、12時30分帰宅を予定しています。 | |

保護者会とGOTOとの懇談会を開催!

12月3日(土)、GOTOの安杖社長、岡本執行役員を迎えて保護者さんとの懇談会が開催され18名の方が参加されました。今回は7年ほど前でしたので、久しぶりの懇談会となりました。安杖社長からは、会社概要や今後の企業としての展望などについてご説明いただきました。その後の質疑では、保護者さんより熱心な質問があり、安杖社長も真摯にお答えいただきました。今後もこのような機会を持ちながら保護者さんを交えたより良い協力関係が作れたらと思います。(楠)



年末工場大掃除

12月3日(土)、利用者さんの全員公休日を利用して職員で工場の大掃除を行いました。天井や機械に積もった埃を全て落とし、工場内全ての埃を回収しました。ワークホーム内で少し早めの初雪(埃)が降りました(笑)が、年始の作業に向けて工場内が綺麗になりました。(花岡)



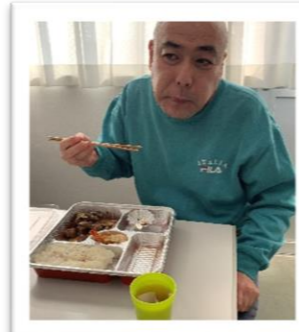
今回の担当は関歩未です



念願のクリスマス会！！



12月24日(土)にワークホームでクリスマス会を実施しました。感染症の影響で行事が制限される中、無事開催できてホッとしています。利用者の皆さんも楽しみにされていたようで、飾りつけの作成など積極的に取り組んでくださいました。ささやかながら福引を行いクリスマスプレゼントとして自分で引き当てた景品を持って帰っていただきました。その後はサンタの格好をした職員が、保護者会から提供していただいた梅はらのお弁当とショートケーキを配りました。ボリューム満点で食べきれぬか少し心配でしたが、皆さんおいしそうに食べておられ、見ている私も幸せな気持ちになりました。今回のイベントが皆さんにとって少しでも良い思い出になっていければ幸いです。(重田)



保護者懇談会を開催中！

12月末より本年度2回目の「保護者懇談会」を開催しています。新型コロナの影響で、保護者の方と会う機会が減るなか、貴重な時間をいただいていると職員一同感謝しています。特に新型コロナ感染8波が猛威をふるう中であって、対面での懇談会開催にご協力いただき、本当にありがとうございます。まだまだ始まったばかりで、1月予定の方もおられますが、引き続きご協力をお願いするとともに、新型コロナ感染が少しでも収まることを願っています。一人あたり30分という短い時間ですが、家での様子や作業の様子について情報を共有し、今後の支援に活かしていきたいと考えています。(吉中)



～第2回ひょうご福祉事業所フェスティバル！～

12月9日(金)10日(土)の2日間、ひょうご福祉事業所フェスティバル(神戸ハーバランドスペースシアター)に参加してきました。初日は平日という事もあり苦戦しましたが、2日目は客足も伸び良いペースで売れて行き、16時終了の1時間前には完売しました。お客さんの中にはポイントカード持参の常連の方や、パッケージを見て「おもしろい」と初めて買われていく方もおられました。(山口)



ふるさと納税が始まりました！！

ふるさと納税が始まりました。佐用もち大豆“極大粒”納豆 24個入り！遠方の友人・ご親戚などお知り合いの方に是非お勧めください。



《1月の予定》
 工賃支給日 11日(水) 16時お迎え、20日(金) 15時お迎えとなっております。
 お間違えの無いようお願い致します。

月刊「ワークホームだより」2月号

発行日:2023年 1月25日

ワークホーム高砂 〒676-0081 高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-fakasago.org/ E-mail workhome@nifty.com

納豆工房なっとこちゃん 〒676-0082 高砂市曾根町1878-1 TEL(079)448-5400 FAX(079)448-5111

https://nattokochan.akarinoie.org/ E-mail natto_koubou@akarinoie.org

障害者の働く場を私たちはどう考えるべきなのか

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己



利用者の藤野敬太さんが三菱重工の障害者採用試験を受け、みごと合格したとの知らせを受けました。6月からの採用ですが、皆さんの前でお披露目をし、「おめでとう！がんばれ！藤野さん！」とエールをおくりました。

ところで、1月10日の神戸新聞に障害者雇用に関して気になる記事がでていました。「障害者雇用『代行業』急増～貸農園運営、企業に働き手紹介」というタイトルで、次のように報道されていました。「法律で義務付けられた障害者雇用を巡り、企業に貸農園などの働く場を提供し、就労を希望する障害者も紹介して雇用を事実上代行するビジネスが急増している」という内容です。簡単に言えば、「高砂運輸(仮称)」は障害者雇用率を達成するために「福祉サービス事業者曾根(仮称)」から働きたい障害者を紹介してもらい紹介料として一人当たり約40万円から70万円程度を「福祉サービス事業者曾根」に支払います。障害者は「高砂運輸」に雇用され毎月給料として11万円から13万円程度を支給してもらいます。しかし、障害者が実際に働く場所は「福祉サービス事業者曾根」が管理・運営する農園で、そこで作った野菜等は販売せず多くは「高砂運輸」の社員に福利厚生的に提供されます。「高砂運輸」は「福祉サービス事業者曾根」に対して農園利用料として初期費用数百万円、1区画当たり月額20万円程度を支払うという内容でした。

このビジネスモデルが問題となったのは、障害者の法定雇用率を形式上達成するための雇用で本当の雇用や労働ではないという指摘です。また、農作業についても「大半が休憩時間だった」との証言もあり、「柔らかな障害者排除」ではないかとの意見も紹介されています。厚労省は、「障害者雇用促進法は労働者が能力を発揮・向上できる機会を求めており、こうしたビジネスは雇用の質という点で疑念を抱かざるを得ない。」とのコメントを載せています。

皆さんは今回のこの記事をどう考えますか。私は、労働の質などの課題はあるもののこうした雇用の中で月額約11万円が給料として支払われていることはB型事業所の工賃が平均3万円にも満たない現実を考えると評価してもいいのではないかと思います。一方、「農園ではほとんど休憩だった」という障害者の話があることや採用された会社とは異なる場所で働いていることをどう考えればいいのでしょうか。障害者一人ひとりの特性に応じた「作業」を提供することが簡単ではないことを私も認識しています。また、「派遣業」というビジネスがあることを考えれば、雇用される会社と働く会社が異なることが「問題」とは言い切れなんでしょう。では、形式的にでも雇用率を達成しようとするのは問題なんでしょうか。私は、今の日本には、「形式的達成主義」が様々な場所ではびこっており、「法を犯さなければ何をしてもいい」といったような風潮があり、それを「価値観の多様化」という表現で容認する社会の現実と問題を強く感じています。

今回の記事は、評価が分かれますが、重要なことは、私たちは共生社会をめざしているという視点です。障害者を排除せず共に生きる社会を創造する同じ仲間という倫理と社会文化を醸成していくことが重要だと思います。ですから「法定雇用率を達成すればそれで良い、法に触れていないから問題ない」ということで済まされてはいけない問題があると思いました。この報道が、こうした視点も含めて幅広く議論するきっかけになることを期待しています。

《公休グループと2月・3月公休日》

| Aグループ | Bグループ |
|---|---|
| 今津さん、小南さん、瀬戸内さん、藤野さん、米田さん、永田さん、岸本さん、光宗さん、竹林さん、中岸さん、玉木さん、常峰さん、小林さん、大野さん、東西さん、福田さん、池上さん | 梅原さん、立岩さん、濱口さん、丸山さん、中村さん、松永さん、森崎さん、浅野さん、木田さん、棒谷さん、木澤さん、大内さん、船田さん、有瀬さん、森川さん、増田さん、福田(し)さん |
| 《2月公休日》 4(土)、5(日)、11(土)、12(日)、13(月) 19(日)、25(土)、26(日) | 《2月公休日》 4(土)、5(日)、11(土)、12(日)、18(土) 19(日)、25(土)、26(日) |
| 《3月公休日》 4(土)、5(日)、6(月)、12(日)、18(土) 19(日)、25(土)、26(日) | 《3月公休日》 4(土)、5(日)、11(土)、12(日)、18(土) 19(日)、25(土)、26(日) |
| ※ ワークホーム高砂クリーニング作業については、水曜日は17時まで作業をおこないます。また、工賃支給日(毎月第2水曜日)については、16時30分まで作業を行いますので、お迎えの方は17時にお願いします。 | |

2023年 仕事がスタートしました！

2023年になり、早くも一ヶ月が経とうとしています。クリーニング作業については、恒例とも言える年末年始に溜まった作業をさばっていくところから新年の作業は始まりました。今年は、土日を含んだため商品は約1週間で片付けることができました。今年は、各作業における課題の共有や幅広い作業スタイルの確立等を目指し、取り組みをスタートさせています。来年度の週5日稼働本格実施に向け、ワークホーム高砂として、全員で作業と支援に向き合い精進していきたいと思っております！（吉中）



今回の担当は長瀬 圭佑です



昼食後の余暇時間の過ごし方



昼食の時間は、現在は感染症対策として黙食をしております静かに過ごしていただいています。昼食が終わるとそれぞれ好きなように時間を過ごします。自分で持っているスマホやゲームをしたり、新聞やチラシを読んだり、職員とお話したりと自由です。中には職員と関係を築く目的で、散歩に行っていた利用者さんもいます。コロナが落ち着いて、三密を気にせず過ごせるようになることを願っています。(関)



三菱重工の採用決まる！



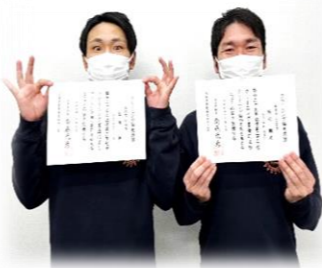
園長も紹介していますが、藤野敬太さんが三菱重工の障害者雇用の試験に見事合格しました。面接や実習形態の試験など難関を突破しての合格で、ワークホームとしても大変うれしい出来事です。6月からの採用ですが、ワークホーム代表として頑張ってくださいと思います。(吉中)

～マイナビ取材～

1月13日(金)に入所施設あかりの家にてマイナビ新卒採用ページの取材を受けてきました。ワークホームからは重田が、納豆工房からは荻内が、入所施設あかりの家からは二人の職員が参加しました。内容は採用ページに掲載する写真を撮り、プロのライターさんから企業についての取材を受けるというものでした。取材では仕事のやりがいや印象に残るエピソードなどを聞かれ、就職してから今日までの9ヵ月を改めて見つめなおす良い機会となりました。就活生がワークホームはじめあかりの家の魅力に気づききっかけになればと思います。(重田)

試験結果発表

以前お伝えしていましたクリーニング師、危険物取扱者乙4の2つの試験を吉中・野村・花岡・長瀬の4名が受けました。この場をお借りして結果を報告させていただきます。結果は……危険物取扱者乙4は全員不合格でしたが、クリーニング師は野村・花岡の2名が合格しました！！2つの試験全員不合格という最悪の状況は免れました。またチャンスをいただける機会があれば、吉中と長瀬は特に頑張ると思います(笑) (花岡)



納豆工房 なっとこちゃん

単独事業所としての2年目を迎えて

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

納豆工房なっとこちゃんは、1月1日を以て単独事業所として2年目を迎えます。ひとつの節目と考え、いま一度『利用者本位の支援』を前提とし、利用者はもちろん、納豆を買っていただくお客様や職員が満足出来る施設づくりに職員一丸となり取り組んでまいります。また今年はウイズコロナを意識しつつ、利用者の喜びと健康づくりを意識した事業を展開してまいります。何卒よろしくお祈りいたします。

(長谷川 博信)



職員紹介



昨年の9月より納豆工房と希望山荘日笠で勤務させていただいております看護師の岩本智子と申します。利用者さんのコロナやインフルエンザなどの感染症対策、通院の同行や、内服・健康管理などを行ったりしています。また体操や運動などを行い、健康の維持増進を図っています。利用者さんが、安心して楽しく働いたり、生活できるよう精一杯取り組んでいきたいと思っております。また利用者さんの体調や疾患などで心配なこと、家での様子で気になることなどがございましたら、いつでもご相談ください。(岩本)

なっとこちゃん2月の予定

工賃支給日:8日(水) 会議日:3日(金)、27日(金)

※会議日は作業終了が15時となっています。

月刊「ワークホームだより」3月号

発行日:2023年 2月22日

ワークホーム高砂 〒676-0081 高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com

納豆工房なっとこちゃん 〒676-0082 高砂市曾根町1878-1 TEL(079)448-5400 FAX(079)448-5111

https://nattokochan.akarinoie.org/ E-mail natto_koubou@akarinoie.org



マスクの着用と対面行事の再開

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

2月10日、厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策本部は「マスク着用の考え方の見直し等について」という事務連絡を発出しました。その内容を紹介します。マスク着用の考え方については、屋内では原則着用、屋外では原則不要としている現在の取り扱いを改め、「マスクの着用は個人の判断に委ねることを基本とすること」「行政は各個人がどのようなときにマスクを着用するのが効果的で推奨するのかを示すこと」の二つの方向が示されています。そして、マスク着用を推奨する場面として「医療機関へ受診するとき」「高齢者等の重症化リスクが高い人が多く入院する医療機関や生活する高齢者施設等へ訪問するとき」「通勤ラッシュ時などの混雑した電車やバスに乗車するとき」が示されました。

ところで、職員については、「勤務中の着用を推奨する」となっているのですが、次のような内容も同時に示されています。「勤務中であっても、従業員にマスクの装着が必要ないと考えられる具体的な場面については、各事業所の管理者が適宜判断いただきたい。例えば、周囲に人がいない場面や利用者と接さない場面であって会話を行わない場面等においてはマスクの着用を求めない、といった判断が想定される」とも書かれています。そして、「マスクの着用は個人の判断に委ねられるものであるが、事業者が感染対策上または事業上の理由により、利用者または従業員にマスク着用を求めることは許容される」とも書かれています。

結局、今回の通知は「マスクの着用については、現場の責任者が総合的・個別的に判断しなさいね！」と私は理解していて、判断に迷うときには「着用」してもらおうと今は考えています。そして、今回の通知で大事なものは、そろそろ対面での活動が許される方向が示されたということであり、その方向の中でワークホームの行事も保護者会行事も考えていきたいと思っています。

3年間という新型コロナ禍の中で対面での行事等を自粛し、その中で失ったものは大変大きかったと思います。人と人とのつながりが減りました。コミュニケーションの不足による不要なトラブルもありました。「満面の笑み」を見る機会もほとんどなくマスク下の表情を想像するしかなかった3年間でした。

次年度は、利用者さんや職員の素敵な笑顔がたくさん実際に見てみたいと強く思っています。我慢の3年間からの脱却を慎重に一歩一歩みなさんの合意を得ながら進めていきたいと思っています。



火災総合訓練実施



1月28日に高砂市消防本部の方に来ていただき火災総合訓練を実施しました。

避難訓練、通報訓練、消火訓練を行い、もしも火災が起こった時には迅速に対応できるよう職員、利用者さん共に気持ちを引き締めて訓練を行いました。

《公休グループと3月公休日、4月からのお知らせ》

今年度は、週5日制に向け試行を行い、公休が不規則になりご迷惑をおかけしました。しかしながら、皆様にご協力の甲斐あって来年度から完全週5日制を実施できる運びとなりました。作業日を集約することでより効率的に作業を行いつつ、支援員も分散せず、より良い支援を行っていきたくと思っています。

| A グループ | B グループ |
|---|---|
| 今津さん、小南さん、瀬戸内さん、藤野さん、米田さん、永田さん、岸本さん、光宗さん、竹林さん、中岸さん、玉木さん、常峰さん、小林さん、大野さん、東西さん、福田さん、池上さん | 梅原さん、立岩さん、濱口さん、丸山さん、中村さん、松永さん、森崎さん、浅野さん、木田さん、棒谷さん、木澤さん、大内さん、船田さん、有瀬さん、森川さん、増田さん、福田(し)さん |
| 《3月公休日》 4(土)、5(日)、6(月)、12(日)、18(土) 19(日)、25(土)、26(日) | 《3月公休日》 4(土)、5(日)、11(土)、12(日)、18(土) 19(日)、25(土)、26(日) |
| ※ ワークホーム高砂クリーニング作業については、水曜日は17時まで作業をおこないます。また、工賃支給日(毎月第2水曜日)については、16時30分まで作業を行いますので、お迎えの方は17時をお願いします。 | |

久しぶりのレクリエーション!!



1月28日にほんとうに久しぶりに利用者さん全員そろっての作業以外の活動を行うことができました。雪残る中でしたが、全員で曾根天満宮へ行き、ちょっと遅めの初詣をしてから、納豆工房で各自、好きな物を買ってワークホームへ帰りました。曾根天満宮では希望山荘のメンバーも合流しました。久しぶりに顔を合わせる人もいて話に花が咲きました。ワークホームへ帰ってきてからの昼食の際には、和菓子を提供しみんなで美味しくいただきました。

新型コロナウイルスが流行して約3年、一泊旅行はおろか、作業以外の活動が全て制限されてしまいました。久しぶりに見る作業以外の利用者さんの顔は生き生きとしていました。作業以外の利用者さんの顔を知らない新任職員もこの仕事のやりがいを改めて感じることはできたのではないかとと思っています。今後ウィズコロナとなり、色々な活動が再開されることが楽しみです。(楠)



今回の担当は楠 英充です

支援員と共にワークホーム高砂、納豆工房なっとこちゃんを支えてくれたパートさん達

今年度もたくさんのパートさん達に支えてもらいながら、利用者支援・施設運営を行ってきました。パートさん達が細かい所をカバーして頂くことで作業も滞りなく行えたり、利用者さんの少しの変化に気付き生活支援が行えています。今回はそんなパートさん達を紹介したいと思います。

ワークホーム高砂

納豆工房なっとこちゃん

児島洋子さん 作業補助



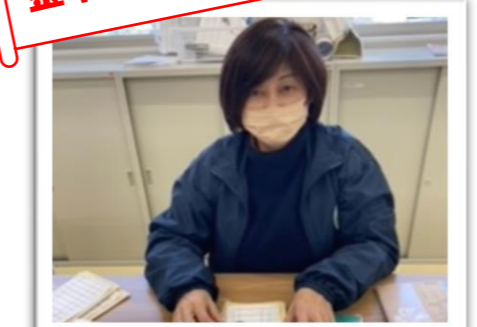
児島さんは、ワークホームが開設して間もない頃から働いていて、ワークホームの事なら何でも知っている頼もしいパートさんです。主にタオル作業を手伝ってくれています。

古田亜都さん 支援員補助



古田さんは、支援員と共に利用者支援を行ってくれています。元気ハツラツで利用者さんも古田さんの笑顔にいつも癒されています。

金本昌子さん 店舗兼事務



金本さんは、一番勤務歴が長く、困ったことがあれば皆金本さんに聞きに行くほど頼りになる存在です。主に店舗と事務をしています。

中田幸恵さん 作業補助



中田さんは、希望山荘の早出と納豆工房の兼務をしてくれています。GHも納豆も何でも知っている頼れる存在です！

山中てるみさん 作業補助



山中さんは、朝はあかりの家で配膳などのお手伝いをしてからワークホームに来て作業をしてくれるとってもパワフルな方です。主にたたみ作業を手伝ってくれています。

神谷典子さん 生活支援補助



神谷さんは、館内の清掃、厨房業務を全て行ってくれるワークホームのお母さんです。神谷さんのおかげでワークホームは綺麗な施設でいられます。

高谷実穂さん 店舗



高谷さんは、工場のスタート時から店舗と掃除をしてくれています。ホンワカした雰囲気の高谷さんは利用者さんに慕われています。

常峰真紀子さん 配達



常峰さんは、納豆の配達を担当してくれています。毎日安全運転で納豆を無事に届けてくれます！

樋口幹世さん 作業補助



樋口さんは、利用者さんの細かな変化に気づき困っている利用者さんに的確なアドバイスしてくれるお母さんのような方です。主にたたみ作業を手伝ってくれています。

実光博幸さん 環境整備



実光さんはワークホームの外はもとよりグループホームなども併せて環境整備を行ってくれています。実光さんが育てる花をみんな楽しみにしています。

三木公美子さん 作業補助



三木さんは、栄養士の免許を持っておられ、作業に給食に専門知識をフルに発揮してくれています。

村山香織さん 作業補助



村山さんは、納豆製造全般を担当してくれています。村山さんの笑顔に皆が癒されています。

池永瑞紀さん 作業補助



池永さんは、午前は清掃、午後は製造を担当してくれています。素早く豆を選別できるプロフェッサーです！

納豆工房 なっとこちゃん

3月の予定ですが、勤務の都合上会議日がイレギュラーになっています。
会議日は3/9(木)3/28(火)で作業が15時までになっております。ご注意ください。

月刊「ワークホームだより」4月号

発行:2023年 3月 24日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



改めて「働く」ことの意味を考える年にしたい

～2023年度への想い～

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

一年は早い。コロナ禍で閉塞感が漂う3年が過ぎて、少しずつ扉を開け始めている。恐る恐るマスクを外し始めている。友人との夕食会も小グループで初めている。

2023年度は、重い扉を開けてみようと思う。利用者さんの一泊旅行は無理でも、日帰り旅行は実現させたいと思っているし、地域との共同行事にも取り組もうと考えている。仮に、扉を開けて新型コロナに感染すれば、きっとグループホームではクラスターになるに違いない。それでも、勇気を振り絞って2023年度は重い扉をみんなで少しずつ開け、人と人との繋がりを再構築する年にしていきたいと思っている。

一年は、早い。その積み重ねである10年も早い。私がワークホームの施設長になってから10年が経過した。作業環境の改善に取り組み、保護者会活動を活発化し、利用者支援の専門性を追求し、工賃向上を目指し、GOTOさんとの関係を見直した10年。今年度は、これまでの取り組みに一区切りをつけ、評価すべき点、反省すべき点を押さえながら、新たなステップへと歩みを進め、利用者さんと職員が新たな「景色」を見ることが出来るよう施設長としての役割と責任を果たしていきたいと思っている。

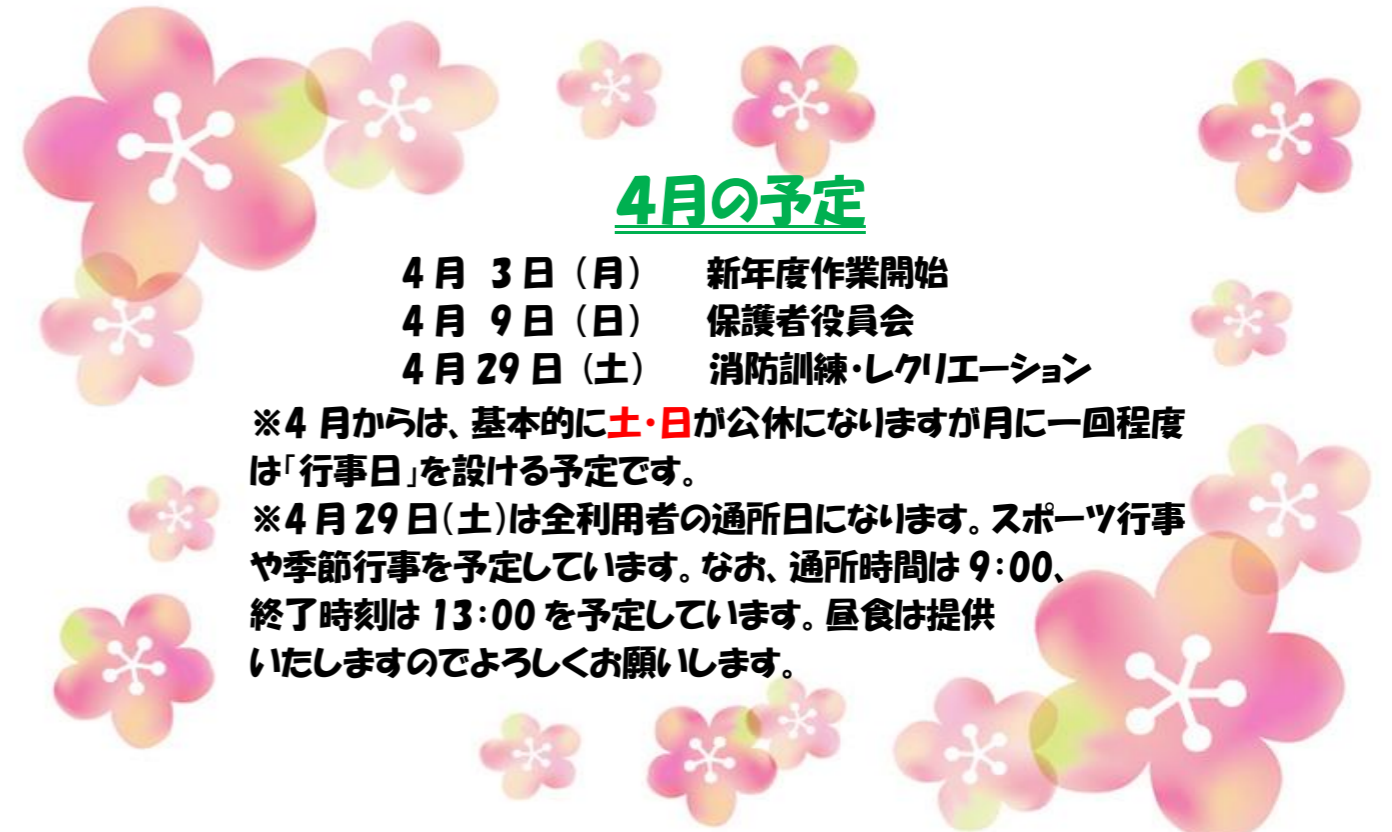
「障害者と共に働き、たくましく成長する！」という、ワークホームの理念を徹底的に追及していきたい。「障害が重いから働けない」などと軽々には言わない。私たち職員が力を付ければ利用者は働ける。そして、成長する。その姿を保護者の方と一緒に喜びあえる事業所でありたいと思う。まだまだ力不足で、利用者や保護者の方にご迷惑をおかけしている。申し訳ないと思う。しかし、職員達も一生懸命に「利用者が働くことの意味」と「自分たちが働くことの意味」を今つかもうとしている。今年こそ、新たな景色が見えるようにしてやりたい。それが私自身に求められている大きな役割だと認識している。

『ワークホーム高砂で働くとは、共に未来を語ること』、そんな一年になるよう利用者一人ひとりを大切にしながら、職員達と一緒に汗を流したいと思っている。

新卒採用職員説明会を実施



2024年度に向け新卒採用者に対する説明会を実施しています。法人あかりの家として本格的に新卒職員の獲得に力を入れ始めました。昨年度は、コロナ渦ということもあり動くに動けないもどかしさがありましたが、これからは積極的に職員採用に関わり、支援者の生の声を届けていきたいと思ひます。そして、説明会に参加して下さった方に、福祉の実態や仕事のやりがいを肌で感じて頂き、法人あかりの家の魅力を伝えて行きたいと思ひています。(吉中)



4月の予定

4月 3日 (月) 新年度作業開始

4月 9日 (日) 保護者役員会

4月 29日 (土) 消防訓練・レクリエーション

※4月からは、基本的に土・日が公休になります。月に一回程度は「行事日」を設ける予定です。

※4月29日(土)は全利用者の通所日になります。スポーツ行事や季節行事を予定しています。なお、通所時間は9:00、終了時刻は13:00を予定しています。昼食は提供いたしますのでよろしくお願いします。

関さん 1年間ありがとう!!



昨年4月からワークホーム高砂で働いてもらった支援員の関歩未さんが、3月末をもって退職されることになりました。いつも利用者思いで笑顔が絶えない関さん。1年という短い間でしたがありがとうございました。また、いつでもワークホーム高砂に遊びに来てください。

《関さんからのご挨拶》一年間という短い間でしたが、皆さまには本当にお世話になりました。自分のなりたい職業のため、次のステージに進む決意をしました。ワークホームで得た経験は、私にとってとても貴重な経験となりました。別の場所からにはなりますが、今後も利用者さん一人一人の人生を応援したいと思ひます。またどこかで見かけた時は声を掛けてくださいね。



新たな希望利用者への説明会



3月21日、ワークホーム高砂と納豆工房なっとこちゃんのことをもっと知ってもらいたいという趣旨で見学会を開催しました。特別支援学校高等部から生徒や保護者の方合わせて12人が参加して下さいました。ワークホーム高砂や納豆工房「なっとこちゃん」だけではなく、グループホームも見いただきました。今回の見学会を通して感じたことは、グループホームのニーズが非常に高いということと送迎を求めている親子さんが多いということです。これからもこうした機会を多く作り、当事者さんや保護者さんの意見を集め今後の事業所運営に活かしていきたいと思ひます。

次回の開催は3/30(木)の予定です。(吉中)

今月の担当は吉中でした。



2022年度 クリーニングの振り返り



2022年度のクリーニング作業は、週5日稼働に向けての移行準備やスポットクーラーの増設、機械の経年劣化に伴うオーバーホール等多くの取り組みを行いました。利用者のみなさんには、週5日稼働の準備として公休日の変動など大変わかり辛くご迷惑をお掛けしました。5日稼働の当初は、作業の段取りや利用者さんの支援方法に困惑することも多くありましたが、みなさんの成長により課題は少しずつ克服されてきています。昨年の夏にはスポットクーラーを増設し、機械に関してもオーバーホールを行い週5日稼働に向けて作業環境の改善と生産効率を上げる取り組みも行いました。全員の頑張りが実り来年度からは、完全週5日稼働で作業を行うことができるようになりました。本当に大変な1年でしたが、なんとかやり抜くことができ嬉しく思います。来年度は、10年後を見据えた取り組みが出来るようチームワークを大切に良い支援と作業環境を整えていきたいと思っています。（花岡）



～新たな利用者さんを迎えて～

3月20日、東はりま特別支援学校から新たに2人の仲間を迎えました！不安な表情を浮かべながらも日に日に溶け込んでいく姿に職員一同安心しています。現在は、お2人とも「たたみ班」を中心にタオルたたみ等の作業を頑張ってもらっています。これから作業場はだんだん暑くなってきますが、毎日元気に通所され仕事に励んでくれることを期待しています。

泉 百花(いづみ ももか)さん



趣味:茶道、アニメ鑑賞
好きな食べ物:和食全般
「これからワークホームで作業を頑張るのでよろしくお願いします。」

田中 智樹(たなか ともき)さん



趣味:YouTube 鑑賞、サッカー
好きな食べ物:ラーメン、チャーハン
「これからワークホーム高砂で作業を頑張ります。家でもタオルたたみなどお手伝いをしています。これからよろしくお願いします。」

納豆工房なっとこちゃん

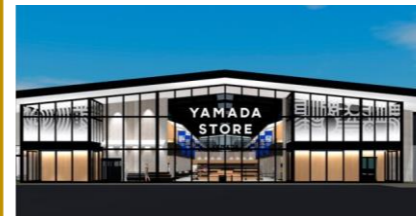
「+NUKUMORI マルシェ」に参加します！！



納豆工房は、3月24日(金)に兵庫県庁で開催される「+NUKUMORI マルシェ」に参加します。こちらのイベントへの参加は今回で5回目となり、以前と比べれば「なっとこちゃん」の知名度も少しは上がっているのではないかと思います。今回も普段と違う地域のお客さんと接するこの貴重な機会に、利用者で作った「なっとこちゃん」の魅力をしっかりと発信していきたいと思っています。（吉田）



ヤマダストアー新青山店オープン



3月4日(土)ヤマダストアー新青山店がオープンしました。新しくなったその名も「新」青山店です。おしゃれになって魅力的な商品がたくさん並んでおり、お客さんでいっぱいです。開店にあわせ、沢山商品を準備いたしました。売り切れが続出。

即、追加納品しましたが、その後も生産が追いつかず、嬉しい悲鳴が起こっています。引き続き心を込めて商品を作って参りますので、是非ともお買い上げのほどよろしくお祈りします。



兵庫県高砂警察署からの協力依頼

兵庫県高砂警察署長から「特殊詐欺被害防止啓発メッセージの掲載依頼」を受けました。

私たちも、地域の一員として頑張れる！と喜んでいきます。

4月中旬以降、警察署のデザインした啓発シールを『なっとこちゃん』に貼り付け販売する予定です。



《2023年4月納豆工房の予定》

- ・工賃支給日 12日(水)16時お迎え
 - ・会議日7日(金)21日(金)15時お迎えとなっております。
- お間違えのないようお願いします。

月刊「ワークホームだより」5月号

発行:2023年 4月 24日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com

子どもの育ちと「こどもファスト・トラック」

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

少子化対策の一環として子ども連れの人が行政などの窓口で並ばないようにする「こどもファスト・トラック」と呼ばれる取り組みの普及を図るための政府会議が4月18日に開かれた。国立科学博物館や赤坂迎賓館では導入に向けた具体的な検討に入ったというから、子ども連れの親子であれば混雑していても一般とは別の入り口から並ばなくても入場できる日も近いのではないだろうか。政府は、民間にも普及させたいとの思惑があるので、例えば、子ども連れならディズニーランドやUSJなどの常に混雑する場所でも「子ども連れ専用ゲート」が用意され、並ばなくても入場できる日がくるのかもしれない。「それならお得感があるから」と、子供を産み育てる若いカップルが増えると単純化するのはいかがでしょうか、これが岸田内閣の「異次元の子供政策」の一環であることは事実なのである。こんな小手先の政策で少子化対策になるのかと疑問に思うのは私だけではないだろう。それでも、少子化対策が今後の日本社会にとって「待ったなし」の中心的な政策になることを国民にアピールするうえで政府としては有効なのかもしれない。

「こどもファスト・トラック」の取り組みで懸念するのは、子どもや子連れの親を特別扱いすることを容認しすぎて、子どもであるがゆえに社会のルールを逸脱してもいいという風潮をつくることになりはしないかということである。「そのけ、そのけ子どもが通る！」となることはないと思いたい、仮にそうした風潮に近づけば、子どもたちはどんな育ちをするのだろうかと少々心配になる。

「人は人の中で社会性を身につける」という基本を考えれば、子ども時代に特別扱いをされることは育ちに良い影響を与えるとは考えにくい。むしろ、一緒に切磋琢磨しながら集団の中で育つ環境こそが必要であり、大人をモデルとして子どもは育つという原則を踏まえれば、私たち大人がどのような社会で子どもたちの育ちを保障するのが問われる。ちょっと言い過ぎかもしれないが、「こどもファスト・トラック」が、「待てない子どもづくり政策」にならないことを祈るばかりである。

「待てる力」「相手に合わせる力」こそが社会性の根幹であり、その力の獲得を「社会性が育つ」と表現すると私は考えている。自閉症の彼らが、もっとも苦手とする「力」ではあるが、ワークホームでは彼らの特性を踏まえながら、「待てる力」の獲得に重点的に取り組み、その成果は「働ける力」に体现されている。

「待てる力」が社会性の基本であるからこそ、ファスト・トラックの今後の取り組みが気になる。今回の「こどもファスト・トラック」政策の議論が、単なる子ども優遇の政策に終わることなく、子どもの育ちとの関係で深く議論されることを期待する。

5月の予定

5月13日(土) 保護者会総会
5月26日(金) ぼんたん運動会
5月27日(土) のじぎくスポーツ大会

《保護者会総会 ご案内》

開催日時 5月13日(土) 13時30分～

開催場所 ユーアイ帆っセンター

送迎希望の方は13時までにWH高砂に集合



～あかりの家→ワークホーム高砂 異動職員紹介～



ワークホーム高砂副施設長兼グループホーム管理者

この4月から、WH高砂でお世話になります 亀山隆幸(かめやま たかゆき)です。

14年前に1年間、働かせていただきましたが、利用者の顔ぶれも半数近く新しくなっておられました。「生涯修行」の魂で、心新たに学ばさせていただきます。

グループホーム希望山荘日笠の管理者との兼務でもあります。どうぞよろしくお願い致します。

グループホーム オリーブの家 副主任

この4月からオリーブの家を中心にワークホームで働くことになりました、山崎享(やまざききょう)と申します。覚えている方もおられると思いますが、10年前にワークホームの職員として働いていた者です。この度、あかりの家から帰ってまいりました。利用者の皆さんの元気な笑顔と成長を、とても懐かしく、そして、とても嬉しく感じています。これから皆さんと一緒に、より素敵なワークホームを作っていきたいと思ひます。精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします。



ワークホーム高砂 支援員

あかりの家から異動して参りました。新山千晶(にいやま ちあき)と申します。

まだまだ分からないことだらけではありますが、少しでも利用者の皆様の方になれるよう頑張っていきたいと思ひます。よろしくお願いいたします。

2023年度スローガン ～みんなで助け合い、みんなで成長し、良い品質の商品を作ろう～

【ワークホーム高砂クリーニング工場 理念】

1. ワークホーム高砂クリーニング工場は、生産量を維持し、お客様に良い品質の商品を安定的に供給します。
2. ワークホーム高砂クリーニング工場は、障害を有する人たちが生き生きと働ける工場をめざします。
3. ワークホーム高砂クリーニング工場は、安全第一の工場運営に努め、助け合いと成長が実感できる職場環境づくりに努めます。

今年度はこのメンバーで笑顔いっぱい頑張ります！！



本年度の目標を2つ掲げます。

1つ目は作業環境並びに職員、利用者の育成、チームワークを大切に仕事がしやすい、やりがいを感じられる事業所にしていきます。その為に作業だけではなく余暇活動の充実、コミュニケーションが取れる機会を増やします。

2つ目は、職員による「クリーニング師」「危険物乙4」等の資格取得です。専門性を高めることにより製品の質を向上させ、より良いサービス提供に心掛けます。

今年度も厳しい一年になると思いますが夏の暑さ、冬の寒さに負けずチーム一丸となりみんなで乗り越えていきたいと思えます。「働く楽しさ」を忘れず力を合わせて頑張っていきます。(野村)

～シーツ班～



シーツ班では主に投入作業、前出し作業、仕分け作業を行っています。一年間を通してほとんどの日が暑い作業場所ではありますが、毎日元気いっぱい作業に取り組んでいます。

まずは安全第一を一番に心掛け、作業に対しては丁寧に行いながら作業スピードも気にしながら、職員・利用者さん全員が声を掛け合い、チームワークを大事に頑張っていきたいと思っています。(長瀬)

～たたみ班～



今年度は、「作業の効率化」、「人材育成」ができるよう心掛けたいと思えます。そして、「利用者の為の支援とは何か」を追求し続け、「出来なかったことが出来た！」と沢山の成功体験を実感させてあげたいと思えます。作業を通して人と人との関係性を大切に、作業が多く大変な時期でもみんなで乗り越えていきたいです。今年度もよろしくお願ひします！(吉中)

～タオル班～



タオル班では毎日山のように積もったタオルをてきぱきと畳んでいきます。終わりの見えない単純作業の連続で気が遠くなりそうですが、すべて片付けて床が見えた時の達成感はタオル班の特権です。毎年夏場はなかなか片付けることができず停滞してしまっていますが、今年度の目標は、「タオルを溜めずにとにかく畳む！」です。みんなで協力して、丁寧にそしてスピーディーに全力で頑張ります！(重田)

月刊「ワークホームだより」6月号

発行:2023年 5月 24日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



作業員から支援員へのステップアップをめざして

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

本年度の職員育成の目標は、「作業員から支援員へのステップアップ」です。

ワークホームに配属された職員は、大きく二つのステップを踏みながら支援員としてのキャリアを積んでいきます。第1のステップは、「作業員」としての段階です。ワークホームはクリーニング作業を行っていますので、新任職員や異動してきた職員は、クリーニング作業の内容を覚えるところから始まります。現在、クリーニング作業で取り扱う商品は250種類を超えており、それぞれについて商品名を覚え出荷方法を理解するなど、作業がこなせるようにならなければなりません。この段階は、「作業員」としての仕事ができるようになることが目標です。「作業員」としての育ちを判断する目安としては、「①利用者さんから作業に関する内容を質問されても困ることなく回答できること」や、「②作業進捗を把握しながら利用者さんに作業支持ができるようになること」です。この2点がクリアできれば、「作業員」としては大丈夫ということになります。

第2段階では、いよいよ「支援員」としての力をつけることが目標となります。第1段階の取り組みと並行しながら第2段階は進んでいきます。第2段階では、利用者を理解して日々の支援を行いながら、支援力・実践力を身に付けていくことが達成目標です。そのためには、「①アセスメントの基本を身に付け利用者の特性や作業能力を把握すること」「②利用者との関係性を深めながらその人に応じた支援方法を開発する力量を身に付けていくこと」などがキャリア目標となります。

以上のような視点で職員の育ちを見ていくと、ほとんどの職員が概ね1年～1年半で第1段階はクリアしていきます。しかし、第2段階はハードルが高く、簡単には「支援員」になりきれないのが実情で、ある意味では「永遠の課題」なのかもしれません。

本年度の人材育成の目標である「作業員から支援員へのステップアップ」は、作業がこなせる職員から利用者の困りごとを事前に把握して丁寧に先回りの支援ができる職員への成長を意味します。たしかに「永遠の課題」ではありますが、これを解決するためには、職員自身の自覚のうえに自ら学ぶ姿勢がなければなりません。第1段階のステップである「作業員」としての仕事は教えることができる内容ですが、第2段階は「学ぼうとしなければ身につかない段階」だともいえます。

先輩職員がその背中を見せて、ワークホーム高砂の「支援員像」を具体的に示しながら、後輩たちがその背中を追いかける。その地道な取り組みの中にこそ、第2段階を達成していくヒントがあるのではないのでしょうか。学ぶ力のある者だけが行きつくことのできるレベル、それが第2段階の「支援員」ではないかと思います。一人ではたどり着けない段階だからこそ、チームワークが大切なのです。そんな視点を持ちながら、職員の成長を温かく見守りたいと思います。



6月の予定



《田植え体験 ご案内(保護者会共催)》



開催日時 6月18日(日) 9時00分～



開催場所 ワークホーム高砂・前橋農園田んぼ



藤野会長 17年間ありがとうございました!



5月13日(土)、ユーアイ帆つとセンターにおいて保護者会総会が対面で3年ぶりに開催されました。総会の前には、納豆工房なつとこちゃんとワークホーム高砂の職員による自己紹介をさせていただきました。総会では、前年度の事業報告と決算、本年度の事業計画と予算が審議されいづれも賛成多数で承認されました。また、会則の改正により、保護者会の名称が「ワークホーム高砂・納豆工房なつとこちゃん保護者会」となり、会費については月額3,000円に引き下げられました。

役員改選では、2007年から副会長をされ2014年からは会長を務めていただいた藤野さんが勇退され、中村さんが新しい会長に選出されました。藤野さんには長年にわたり保護者会をリードしていただき本当にありがとうございました。本年度からは保護者会顧問となりますので、引き続きよろしくお祈いします。

今年は、感染症対策の規制が緩和され共催行事も予定されていますので、少しずつ保護者の皆さんと職員が顔を合わす機会が増えそううれしく思います。(重田)



今回の担当は野村でした。

さわやかな風を受けてスポーツを楽しむ！！

4月29日（土）は、初めての作業のない通所日でした。今年は月に1回程度、土曜日の通所日を設け、作業の進み具合をみながら行事を設定することにしています。4月の行事日は、「スポーツを楽しむ！」をテーマに、高砂市障がい者自立支援協議会が主催するサッカー教室に参加する利用者さんと、天川東公園でのレクレーションに参加する利用者さんに分かれてスポーツをそれぞれ楽しみました。

《ユニナビサッカー教室で汗を流す・・・》

ユニナビサッカー教室には、13名の利用者と楠支援員、吉中が参加しました。

コロナ渦で余暇活動がほとんど行えなかった状況でついに作業場面以外での利用者さんの顔を見ることが出来ました。作業場とは違い、元気いっぱいグラウンドを駆け回る姿に感銘を受けました。ゴールを決めれば大喜びでガッツポーズ、シュートを外せば悔しがると表情を見ていると、余暇活動がどれだけ大切だったのかを痛感しました。今年度はこのような活動を増やしていけるように企画を考えていきたいと思えます。（吉中）



《天川東公園でリレー大会》

天川東公園でのレクレーションには、17名の利用者と野村支援員、重田支援員、新山支援員、花岡支援員、長瀬の5名の職員が参加しました。

レクレーションでは、3チームに分かれて「ピンポン玉リレー競争」を行いました。ただ走るだけの競争ではなく、お玉にピンポン玉を入れて走るリレーで、皆さんピンポン玉を落とさないよう真剣な表情で走っておられ、走り終わった利用者は、他の方の応援をする姿も見られました。終了後は、公園内でお菓子を食べて、感想を聞くと「楽しかった！」「またしたい！」という声も多く聞かれました。作業とは違った表情や楽しんでいる姿を見ることができ、とても貴重な時間となりました。今後も新型コロナ感染対策をしながら、外での楽しい時間をたくさん作っていききたいと思います。（長瀬）



避難訓練を実施しました！

4月29日（土）、通所してすぐに「避難訓練」を行ないました。今回は1階の洗濯場から出火した時を想定して、2階の食堂から避難をしました。緊張感を持ってもらうために、手で口と鼻を塞いでの避難を行なってもらいました。ただ逃げるだけではなく本番さながらの避難を行なえることができたと思います。（花岡）



改めて気を引き締め直す！・・・法人感染症対策研修に参加して・・・

5月13日（土）、10時から12時まで「法人感染症対策研修会」に参加しました。

新型コロナウイルスが2類から5類に移行し、どこか気が緩んでしまう状況ではありますが、今回の研修を受けて改めて引き締めることが出来ました。5類に移行しても感染力が低下した訳ではありません。今後も感染対策をしっかり行い、「もらわない」「うつさない」を心掛け、徐々にではありますがこれまでの「日常」を取り戻していければと思います。（吉中）



ひでかつ給食会議



5月17日、毎日利用者さんに提供しているお弁当の製造・配達をしてくださっているひでかつ給食さんと給食会議を現地で行いました。利用者さんからは「お肉をたくさん食べたい！」「フルーツが欲しい！」「行事食がほしい！」というような意見が上がっていました。値上がりの影響で難しいものもありますが、前向きに検討してくださるようです。会議後は厨房の外からはなりませんが、少しだけ製造や洗い場の様子を見学させていただくことができました。お弁当箱を一つ一つスポンジでこすっておられ、アルコール消毒液も複数設置されており、衛生面もばっちりでした。毎日食べるお弁当が、利用者さんにとって大きな楽しみとなり、仕事のモチベーションにつながればいいなと思えました。（新山）

月刊「ワークホームだより」7月号

発行:2023年7月23日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



法人事例研究会の発表を聞きながら・・・

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

6月11日に法人事例研究会が開催された。今年の事例研究会は、社会福祉法人あかりの家全体で事例研究会を位置づけ、事業所間の連携について考えるという画期的な企画であった。その主管事業所としてワークホーム高砂が担当した。

テーマは、「働く」。様々な角度から障害者が働くことの意義や私たちの働き、つまりは日々の利用者との関わりなどの実践について事例を報告した。当日は、ノートルダム清心女子大学青山新吾先生からコメントをいただき、大変充実した時間を過ごすことができた。

ワークホームの発表は、楠課長補佐が「作業員から支援員への転換に向けて～ワークホーム10年の歩み～」というタイトルで、彼がワークに勤めはじめてからの取り組みを発表してくれた。楠支援員の10年は、私のワークホームでの10年と重なる。そのため、取り組みの一つひとつがリアルに伝わってくる内容であった。

ワークホーム2年目に入った重田支援員は、僅か1年ではあるが利用者Eさんへの実践を報告してくれた。自閉症のEさんはこの1年間、私たちのある意味「先生」であり、重田支援員だけではなく全ての支援員に様々な問題提起を突きつけ、それへの解釈や実践を求めてきた。難易度の高いテーマで全ての職員が翻弄されたが、その中心に利用者担当の重田支援員がいた。悩み苦しみながらも、少しずつ見えてきたEさんのことを一生懸命にデータを駆使しながら報告し、青山先生のみならず、あかりの家の先輩たちからも随分と評価してもらった。施設長としても大変うれしかった。

Nさんの「通勤」に焦点を当てて発表をする予定にしていた花岡支援員は、残念ながら足の手術のために急遽、楠支援員が代役で発表をしてくれた。「自力通勤」や「自力通所」に挑戦するなかで感じた公共交通機関を利用する難しさ。特に、社会の自閉症の方への理解がまだまだ進んでいない現実を実感した報告であり、私たちが社会への啓発を疎かにしてきた責任を痛感する内容でもあった。

大学時代、まだグループホームが制度化されていない時、知的障害者の地域福祉を学ぶために知的障害者が普通に民家で暮らす滋賀県信楽地方に行ったことがある。夏休みであり街の喫茶店に入ってアイスコーヒーを頼んでコーナーの席に座った。すると、マスターが「学生さんは福祉大学の学生さんかい？」と尋ねられ、「もうすぐ、その席の主人がやってくるから・・・」と笑いながら話しかけてくれた。5分か10分が経った頃だった。喫茶店のドアのカウベルがカランカランと鳴って、ツカツカッと一人の若い男性が体を揺らしながら僕の前に立った。マスターの視線が温かく「ほらね」とでも言っているように見え、僕は「なるほど、彼がこの席の主人」だと察して、席を譲ったのだった。今思えば、彼は典型的な自閉症の方であったように思う。

障害のある方が普通に街で暮らすためには、街の人たちが障害者と日々接する機会を自然な形で増やしていくことが大切だと思う。もちろん、障害特性などを学ぶ機会も必要だと思う。Nさんの「通勤」事例の報告を聞きながら、40年前の暑い夏の喫茶店での出来事とマスターの笑顔を思い出していた。

7月の予定

7月22日(土) 健康診断

9:00～12:00 ※昼食の提供はありません。

7月29日(土) 環境整備事業(保護者会共催)

9:00～11:30 場所:ワークホーム高砂・第二作業場

※昼食の提供があります。保護者の方については、保護者会から昼食が提供される予定です。

田んぼで、大はしゃぎ！・・・田植え体験行事を開催！

6月18日(日)、保護者会との共催行事として「田植え体験」を初めて開催しました。

当日は、薄曇りの絶好の田植え日和で、納豆工房なっところちゃんからも利用者さんと保護者さんが参加してくださり、お声掛けをしてくださった前橋農園の方や保護者さん、利用者さんなど総勢80名を超える方々の参加で大いに盛り上がりました。田植えは、手植え体験と機械植え体験の両方あり、どろどろになりながらも楽しい笑い声が絶えない行事となりました。

今回の企画は、周辺の田んぼで稲作をしておられる前橋さんからの誘いによるもので、ワークホームとしては地域の方とのふれあい機会が少ない中で、大変貴重な行事となりました。秋には稲刈り体験も予定されていますので、稲の成長を見守りながら収穫を楽しみに待ちたいと思います。(齋藤)



今月の担当は新山でした。

新しいパート職員・利用者さんを迎えて

～パート職員 徳澤雄生さんの紹介～

初めまして。徳澤雄生（とくざわゆうき）です。特技はテニス・卓球・バトミントン・バスケットボールで、体を動かすことが好きです。

ワークホームに来る前は、クッキーの検品やラベル貼り、箱作りの作業をしていました。ワークホームではタオルの検品をしています。早く慣れていけるように頑張りたいです。よろしくお願いします。



～新利用者 前野知之さんの紹介～

6月5日から新たに前野知之（まえのともゆき）さんが利用されています。本人に意気込みをお聞きしますと、「『頑張る』という意欲は充分です。皆さんよろしくお祈いします！」とのこと。ワークホームでは体力も必要となりこの時期から暑くなってきましたが、前野さんのペースで作業をして頂き、少しずつワークホームの生活に慣れて頂きたいと思っています。（長瀬）



ワークホーム大活躍！！

ばんたん親善運動会

5月26日（金）、4年ぶりとなる「ばんたん親善運動会」が加古川運動公園陸上競技場で開催されました。ワークホームからは、増田康孝さん、光宗さん、森川さん、小林さん、瀬戸内さん、藤野さんが参加しました。競技は玉入れ、棒運び、綱引きの3種目で、ワークホーム率いる白組はなんとすべての競技で圧勝でした！

私自身他の福祉事業所との合同行事に参加することは初めてだったのでとても良い刺激になりました。また、作業場とは違う皆さんの表情が見れたことがとてもうれしかったです。（重田）



“第1回法人事例研究会”開催される！！

～ワークホームが主管を務める～

6月11日（日）に第1回法人事例研究会がワークホーム高砂で開催されました。ワークホームとしては初めて主管事業所を務めさせていただき、4月頃から資料整理などを全員で準備してきました。今回は、「ワークホーム高砂10年の取り組み」と個別ケースを2つ発表させていただきました。これまで作業が忙しいなどの理由からこうした研修会への参加ができていませんでしたが、自分たちの日々の実践を振り返り、課題を再整理する良い機会となりました。（楠）



のじぎくスポーツ大会

5月27日（土）、県立三木総合防災公園陸上競技場において第17回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会が開催されました。陸上1500mにおいては、小南 政英さんが参加され5分を切る好タイムで優勝され全国大会（鹿児島）の切符を手に入れました。

また、同日に開催されたサッカーでは、地域クラブに所属している梅原さん、泉さん、田中さんらがそれぞれのチームで大活躍、楽しい一日を過ごしました。（亀山）



頑張れ藤野さん！

6月1日から三菱重工高砂工場にて就労が決まった藤野敬太さんの贈る会を5月31日の帰宅前に行いました。藤野さんは、17年間、主にシーツ班で作業を行っていただきムードメーカーとして頑張ってくれました。藤野さんの笑顔には、利用者さんも職員も救われることが多くあり、一緒に働けなくなることはさみしいですが、新たな環境で頑張ってもらいたいとみんなで送り出しました。藤野さんには、ワークホーム高砂で得た経験を活かし持ち前の明るさで頑張ってもらいたいと思います。（吉中）



～2022（令和4）年度の年間平均工賃（月額）～

2022年度の平均工賃を報告させていただきます。B型事業については、47,000円に近づいてきています。県下でも高工賃がお支払いできる事業所として今後も頑張りたいと思います。また、生活介護事業についても、高い工賃が支払えるよう努力したいと思います。

<就労継続B型事業>……46,960円

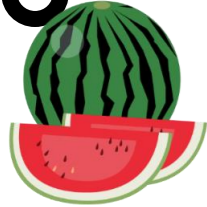
<生活介護事業>……23,032円

月刊「ワークホームだより」8月号

発行:2023年7月25日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



昭和モデルから令和モデルへの転換を

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

6月23日から29日までは、政府が定める「男女共同参画週間」でした。この週間に合わせて『2023年版男女共同参画白書』が閣議決定され内閣府から公表されました。インターネットで配信されていますので、是非一読をお勧めします。

この白書は、「男女共同参画」の視点から様々な分野において日本社会の「今」と「未来」を分析していて大変興味深い内容です。290ページに及ぶ膨大な文章とデータが掲載されていますので全てに目をとおすことは難しいですが、興味のある分野を読むだけでも日本社会が大きく変わりつつあることに驚かされると同時に、自分の価値観を問い直す必要があることを痛感します。

『白書』を私なりに紹介すれば、冒頭は、世帯・家族の変化と人生の多様化に言及しています。昭和60(1985)年には全世帯の4割を占めていた「夫婦と子供」の世帯は、令和2(2020)年時点では全体の25%となり、単独世帯とひとり親世帯が全体の約半数を占めるようになったことや、令和4(2022)年時点の共働き世帯は、専業主婦世帯の3倍近くとなっていることが紹介される一方で、「男女雇用機会均等法」が施行されて37年が経過するにも関わらず、有償労働時間が男性、無償労働時間が女性に大きく偏るなど、依然として、固定的な性別役割分担が残っていると指摘しています。また、「未婚女性の理想のライフコース、未婚男性の将来のパートナーに対する期待」を見ると、「両立コース」(結婚して子供ができて働き続ける)が「再就職コース」(結婚して仕事を辞めて子育てが終わってから働く)を大きく上回るなど、近年、主に若い世代の理想とする生き方が変わってきていることが紹介されています。そして、このような変化を捉え、我が国の未来を担う若い世代が理想とする生き方、働き方を実現できる社会を作ることこそが、今後の男女共同参画社会の形成の促進においては重要であると指摘しています。そして、以上のような分析を重ねながら『白書』は次のような提言を行っています。「今こそ、固定的性別役割分担を前提とした長時間労働等の慣行を見直し、『男性は仕事』『女性は家庭』の『昭和モデル』から、全ての人々が希望に応じて、家庭でも仕事でも活躍できる社会、『令和モデル』に切り替える時である」と。

「少子化」「世帯・家族の変化」「次の時代を担う若者たちの意識変化」など、「男女共同参画」の視点から提起される多くの課題が、そのまま「社会福祉法人あかりの家」と「ワークホーム高砂」の働き方に突き付けられていると受け止めなければならないと思います。そして、私自身に対する意識改革も同時に求められており、自分自身が「昭和・平成モデル」を「令和モデル」へとシフトしていけるのかが問われていると思います。時代を見据え将来を意識しながら職場改革・働き方改革にどう取り組むのか、これから生きる職員達にも同時に求められる視点だと思っています。

～ 8月おしらせ ～

- ・保護者参観:7日(月)、8日(火)、11日(金)
- ・工賃支給日:8月9日(水)

※工賃支給日(毎月第2水曜日)については、16時30分まで作業を行いますので、お迎えの方は17時をお願いします。

※日帰り旅行の日程・場所が決定しました。

日時:9月23日(土) 場所:奈良公園周辺

詳細につきましては後日別紙にてお知らせします。



あつ～い夏がやってきた!!



6月後半から作業場の温度が30℃を超えることが多くなってきました。利用者さんにはこまめに水分補給を行っていただき、15時には1人1本アクエリアスを提供しています。皆さんいい飲みっぷりです。休憩時間は長めに取り、ゆっくり休んでいただいています。

昨年のクーラー新調により、一人一人に冷たい風が当たるようになりました。雨が降っている日は窓を開けて作業することができず、じめじめと蒸し暑いですが、クーラーの効果で作業がしやすいです。これからも利用者さんの体調に注意しながら、暑さに負けず一丸となって頑張っていきたいと思います。(新山)



今月の担当は、長瀬圭佑でした。

成長を実感した今年の健康診断♪

～わいわい がやがや 楽しく受けました～

7月22日(土)、加古川総合保健センターの方13名に来ていただき、利用者さんと職員の健康診断を行いました。年に1度の定例行事ですが、今年初めて受けられた泉さん、田中さん、前野さんもスムーズに検査を受けられていました。今年は、作業5日稼働の利点を活かし、クリーニング作業を緩やかにを行い、職員は利用者の健康診断のサポートに出来るだけあたるようにしました。数年前までは血液検査の注射を見るだけで逃げようとする利用者さんもいましたが、今年は皆さん慣れた様子で成長を実感することができました。体重が増えた人、減った人、身長が縮んでしまった人、色々な人がいましたが、今回の健診結果を参考にしながら、これからも元気に通所できるよう支援していきたいと思えます。(花岡)



全国知的障害施設長会議と全自者協総会に初参加!

東京で開催された「全日本自閉症支援者協会」(全自者協)総会(7月12日)と「全国知的障害関係施設長等会議」(7月13日~14日)に初めて参加しました。

「全国施設長会議」では、共生社会を実現するためには『企業』とのパートナーシップが不可欠で福祉事業者や行政だけでは限界があるという考え方が強く印象に残りました。特に、「世界的な企業500社のCEOにより主体的な連携を促し、ビジネスにおける障害者に対する差別と排除を終わらせる」という「Valuable500の取り組み-」の「終わらせる」という断言的語尾は、世界的な企業だからこそ言える?力強い言葉で福祉に慣れ親しんだ私からすると大変刺激的でした。

「全自者協」の総会では古い仲間たちとの再会があり懐かしく語り合いました。また、次年度の強度行動障害者に関する厚労省施策の中に「集中支援」が位置付けられたとの報告があり、あかりの家の「強度行動障害地域生活支援事業」の取り組みが評価されたものと受け止め、大変うれしく思いました。(亀山)



福祉の就職総合フェア inHYOGOに参加!

7月15日(土)に神戸国際展示場で行われた「福祉の就職総合フェア inHYOGO」という就活生、一般求職者向けのイベントに社会福祉法人あかりの家として参加しました。兵庫県内約130の法人が参加する大きなイベントでしたが、7月開催と



いう事もあり、今年卒業の学生さんの参加は少なく、少し寂しい感じでした。しかし、興味を持ってブースに足を運んでくださった方々にはあかりの家で働くことの魅力を存分に伝える事が出来たと思います。今後もこういう場で自信を持ってやりがいや働きやすさをアピールできる法人、施設であり続けたいと思えました。(重田)



あいがもロボット!?で除草



6月18日、みんなで田植えを行った田んぼに「あいがもロボット」が来るという事で見に行きました。この日は田植えを行って11日目でちょうど雑草が生えてくる頃、昔ながらのあいがも農法を、スマート農業でロボットが行うという事でワクワクしながら見に行きました。想像していた可愛いあいがもロボットではありませんでしたが、力強く水をかき混ぜ、日光を遮ることで雑草の育成を阻害する姿を食い入るようにみんな見つめていました。9月の稲刈りが本当に楽しみです。(楠)



月刊「ワークホームだより」9月号

発行:2023年 8月 24日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



台風7号と「社会人」

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

8月15日、お盆の真っ最中に台風7号が直撃した。13時頃には、「台風目」に入ったのか、雨は小雨に変わり風も止まって静かになった。人生65年生きて来たけれど、「台風目」を体験したことはそう多くはなく、久しぶりに「台風目」を体で感じながら、「大雨・強風警報」が発令される中でも働きに来てくれる利用者さんのたくましさで感動していた。

お昼休みで事務所にいた重田支援員に、「もっと休むんじゃないかと思ったけれど、意外とたくさん来てくれたよね」と話をすると、「さすが、社会人ですよ！」と感慨深げに返答してくれた。「そうか、社会人か、たくましくなったな～」と実感した瞬間でもあったが、そんな彼らにワークはしっかりと報いてきたのだろうか、考えたのだった。

私が施設長に就任してからは、「働く中でたくましく！」をスローガンにしてきた。宮沢賢治ではないが、「雨の日も風の日も、暑くても寒くても」利用者はやって来る。こんなに安い工賃なのになんで来るのだろうか？と不思議だと思ふことも多々ある。もっと楽で良い工賃をくれる事業所はたくさん増えている。それなのに、みんな来てくれる。本当にありがたい。台風の中でも送迎してくれる保護者の方には感謝しかない。しかし、「本当にこれでいいのだろうか」と、最近感じる事が多くなった。

ワークホーム高砂が開設された当時は、一部の例外を除けば「自力通所」の人しか受けない事業所だった。しかし、私が来てからは少しずつこの原則を緩め、保護者の方の送迎を認め、ついには私たちが送迎サービスを提供する事業所になった。そうしなければ、利用者が集まらなくなった現実があるからだ。それでも、就労継続B型の利用者の多くは、開設当時の方が大半で、今でも電車や自転車を使って通所しているし、自宅から近い人は歩いて自分でやってきている。自分の力で通所するという事は、社会との接点が増え社会のルールを身に付ける機会が増えることを意味する。交通ルールを意識しなければならないし、知らない人と挨拶することもある。電車が止まれば臨機応変に対応しなければならない。自力で通所するという事は、自分で判断しなければならないことを自然と体験することでもある。一人だけの時には使わない脳細胞が働くから脳が活性化し、振る舞いもしっかりとしてくる。「自力通所が利用者を社会人に育てる」という一側面があることを強く感じている。

台風7号の通過の中で、利用者さんのたくましさを感じつつも、一方で、「警報が出れば事業所は休みになるんですよ」と、尋ねてきた利用者さんがいたことも事実である。利用者の高齢化と重度化、バリバリ働く「昭和モデル」から楽しく緩やかに働く「令和モデル」への転換が思いのほか早いスピードで進んできている。利用者が集まらなければ事業所運営が破綻する。この現実をどう受け止めるべきなのか。台風7号の通過の中で、これからの事業所運営の難しさをひしひしと考えていた。

～ 9月おしらせ ～

9月13日(水) 工賃支給日

9月23日(土) ワークホーム日帰り旅行
行き先:奈良

9月30日(土) 保護者会施設見学会
行き先:愛心園



※工賃支給日(毎月第2水曜日)については、16時30分まで作業を行いますので、お迎えの方は17時をお願いします。



暑い中の大掃除!

～保護者会環境整備事業～



7月29日(土)、4年ぶりに保護者会環境整備事業が行われました。当日は炎天下の凄まじい暑さの中で、第二作業場と周辺の清掃を行っていただきました。中村保護者会長を先頭に屋根裏のウレタン掃除や床掃除、ガラス掃除など、約30名の保護者の方にご参加いただきました。清掃終了後はきれいになった第二作業場で保護者の方だけで食事をとっていただき、親睦を深めていただきました。これからは、きれいになった第二作業場を有効活用できるよう、様々な活動を考えて行きたいと思っています。暑い中でしたが本当にありがとうございました。(野村)



中も外も
びかびか!



お父さん方も大活躍!



今月の担当は、楠英充でした。

ぼんたん・ゆうあい 文化祭へ向けて!! ステンドグラス作り



7/29(土)の保護者環境整備の日に、職員と利用者さんと「ぼんたん・ゆうあい文化祭」(11月開催)に展示する作品製作を行ないました。今回は、食堂で新型コロナウイルス感染防止の為に使用していたアクリル板を再利用してステンドグラス風の飾りに挑戦しています。まず黒のテープを貼り、そこに自由に線を書き、重なり合った部分を切り抜き、着色して作品へと仕上げていきます。

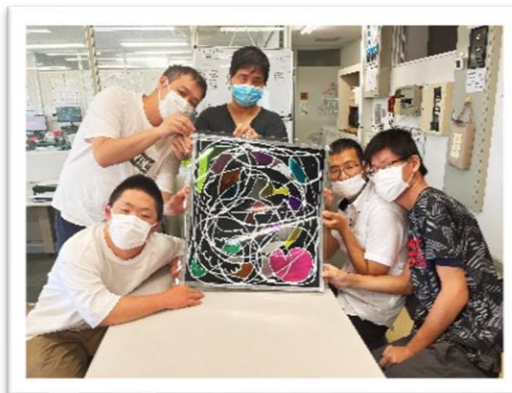
日帰り旅行で一緒に行動をするメンバーで別れ、それぞれ好きなように模様や絵を書いています。各班の担当職員を中心に、班全員で交友を深めながら様々な模様・アート作品が出来上がっていききました。まだ完成はしていませんが、職員と利用者さんが協力し、素晴らしい作品に仕上がるようにしていこうと思います。皆さん楽しみにして下さい！
(花岡)



仕事より真剣！？ 😊



普段の真剣な表情とは違い楽しそう 😊



初めての新型コロナクラスター

ワークホーム高砂

7月31日の朝、職員と利用者から発熱症状や新型コロナ感染陽性の報告が相次ぎました。ニュースなどではよくクラスターと耳にしていますが、こんなにも広がるものかと少しビックリしました。約10名の方が休まれ人数が少ない日が1週間も続きさみしい思いもありました。しかし、GOTOの社員の方が作業に入ってくれたり、通所された利用者さんが休まれた方の分まで一生懸命仕事をされている姿をみて、ワークホームのチーム力を感じた1週間でもありました。感染対策はしてきましたが、時間が経つにつれてどこか気の緩みがあったのかもしれないと反省しつつ、再度感染対策の徹底を全員で意識していきたいと思っています。
(長瀬)

オリーブの家

7/31(月)~8/5(土)の間、4名の方が感染しました。ただ、7月にワクチン接種を受けていたこともあり、38℃以上の発熱があったのは2度のみで、咳などの症状もほとんど見られませんでした。前回同様、居室で過ごす形をとりましたが、皆さん取り乱すこともなく過ごされました。症状もなく、抗原検査陰性を確認できた方はワークホームに通所されています。介護者側の対応も慣れてきましたが、感染防止に向けて、トイレの共用などの課題が残されているのも実情だと思っています。
(亀山)



現在、ワークホーム高砂・グループホームでは、月曜日と金曜日に職員・利用者全員に対して抗原検査を実施し、事業所内へウイルスを持ち込まないことを徹底しています。今後も基本的な感染症対策を疎かにせず、全員が元気に働けるように努めていきたいと思っています。



稲作ニュース!!



6月に田植えを行ったワークホーム高砂・なっところちゃん米ですが、台風にも負けず青々と成長しています。10月の稲刈りに向け、金色の稲穂が首を垂れるのが待ち遠しいです。稲刈りの際は楽しい新米イベントを保護者会と一緒に考えていますので楽しみにしてください。



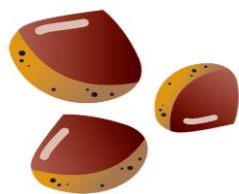
8月21日 撮影

月刊「ワークホームだより」10月号

発行:2023年 9月 21日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



障害者就労の大きなうねりの中で・・・

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

障害者就労の「今」を考える際、「作業所」の意味を改めて確認しておく必要がある。「作業所」は、障害を持つ親を中心に1970年代後半から1990年代にかけて日本の各地で作られた。この時代に作業所が作られたのは、1979年に「養護学校」(現在の特別支援学校)が義務化され、そこを卒業した子どもたちの「働く場」が十分に用意されていなかったことが大きい。養護学校の義務化の意義は、それまで教育猶予や免除という名の下で教育を受ける権利を奪われていた子どもたちに就学機会を保障したということである。しかし、以前にも書いたが、この制度により「障害児」と「健常児」を異なる学校で学ばせることが常態化し、障害児を特別な場に追いやっているとの見方もできる。したがって、共生社会の実現には、この分離教育を解消し健常児と障害児とを同じ場で学ぶインテグレーション教育が必要であると国連の障害者権利委員会が指摘するのもうなずける。

ところで、養護学校を卒業した子どもたちの「働く場」としては、当時の制度では「知的障害者授産施設」(入所型、通所型)が用意されていたが、義務化された養護学校卒業生を受け入れるには十分な定員が確保されていなかった。当時は企業が障害者を積極的に雇用する時代ではなく、法定雇用率も低かった。そこで、保護者や関係者の努力により法に基づかない「(無認可)作業所」が作られていった。ここで大事な点は、親たちが資金を集めて作ったのは「デイサービス事業所」ではなく「作業所」であったという事実である。つまり、日中活動なら何でもよいということではなく、障害があっても大人として働くことを我が子に意識させたいとの思いが「作業所」という名称には体现されていた。しかし、「無認可作業所」の運営基盤は弱く、ましてや作業の中身としては内職程度で作業も少なく、「工賃」は僅か数百円から数千円程度であった。こうした時代状況の中、2003年にワークホーム高砂が設立され企業(当時はMAO)の協力を得ながら本格的なクリーニング作業を行い工賃も数万円を保障する工場が稼働した意義は大きい。しかし、この20年の間に時代は大きく変化し国の施策を反映して大企業が積極的に「障害者雇用」を促進している。これは、「労働」とおしての「共生型社会の実現」を意味しており、障害者だけを集めて働いてもらう「分離型労働」はもう古いといえるのかもしれない。

現在、ワークホームで働く利用者の約半数は、一定の配慮さえあれば十分に企業で働ける人たちである。6月に三菱重工に就職した藤野さんは他の方よりも働く姿勢が出来ていると評価してもらっている。これからのワークホームは、①一般企業や最低賃金が保障されるA型事業所で働く利用者を育てて送り出す機能(就労移行支援事業)を強化する必要がある。と同時に、②企業内で働く障害者や企業の相談に応じる「ジョブコーチ的機能」(定着支援事業)が必要である。しかし、③企業での雇用失敗した人やそもそも企業が雇ってくれない障害者が安心して働ける場(就労継続B型事業、生活介護事業)を備えた事業所であることも必要である。

障害者就労に関係する時代状況の大きな変化の中で、ワークホーム高砂の持つ機能を早急に見直す時期にきている。

～ 10月おしらせ ～

10月11日(水) 工賃支給日

10月29日(日) 父親の会 稲刈り体験

BBQ大会

※工賃支給日(毎月第2水曜日)については、16時30分まで作業を行いますので、お迎えの方は17時をお願いします。

※10月29日は利用者さん全員通所日になります。

新任研修に参加しました！！

9月11日、兵庫県福祉センターにて開催された新任研修に参加しました。講師の大内秀之さんは両脚に重い障害が残り車いす生活をしている方でした。今回の研修のテーマは「目の前の障がいの捉え方」で、大内さんが障がいとどう向き合ってきたのかというお話をされていました。「障害をできないことの言い訳にしない。やるかやらないかが大事。」という言葉がとても印象に残っています。私自身ももっと様々なことに挑戦し、経験を積んで、利用者さんの可能性を広げられるような支援員になりたいと思いました。(新山)



再来年度の職員獲得に向けて・・・

9月9日(土)に明石市の市民広場で行われた就職フェアに参加してきました。今回も学生さんの参加は少なく、あかりの家の法人ブースに来られるのは中途での入社を考えている40代～60代の方がほとんどでした。福祉未経験の人が多く、そういう方が障がい者支援という福祉の仕事に興味を持ってくださることがうれしかったです。また、兵庫県議会議員や明石市議会委員のかたが挨拶に来られたり、他の法人の取り組みなども知ることができ、良い交流の機会となりました。(重田)

今月の担当は、吉中でした。

新たなチャレンジ！作業班変更！！

9月より大内さん、福田聖さん、増田さんの作業班を変更しました。皆さん最初は少し緊張しているのか戸惑いを見せる場面もありましたが3週間程経過し、自分の役割を一生懸命に果たしてくれています。(花岡)

《大内 雄喜さん》



通所し始めて初めてシーツ班へチャレンジしてもらっています！機械へシーツを掛ける投入・掛ける為の準備である前出しを主に行なっています。始めは慣れていないこともありゆっくりでしたが、今では機械のスピードに追い付くところまでできるようになりました。シーツ班に新たに若い力が加わりました。

《福田 聖悟さん》

たたみ班で作業を行なっていましたが、退所された利用者がいたこともありこの度タオル班で頑張ってもらうことになりました！綺麗にタオルを畳めています。花岡よりも綺麗に畳めています。(笑)汚れを見つけた時は近くの職員に大きな声で「汚れあったよ！」と報告してくれています。



《増田 康孝さん》



タオル班で作業を行なっていましたが、久しぶりにたたみ班で作業を行なうことになりました。以前までやっていた作業をしっかりと覚えていて、防水シーツ・ベビータオルケット等、幅広く畳んでもらっています！作業が終わると「空っぽです！」と近くの職員に報告しに来てくれています。

訪問型職場適応援助者養成研修に参加！

8月28日～8月31日の4日間座学を行い、9月4日に実際の現場で実習を行って5日に再度座学という長い研修を受けてきました。訪問型職場適応援助者とは、いわゆるジョブコーチ(JC)というのですが、障害者雇用などで福祉サービスが切れた後、問題が出た時に企業を訪問し障害者・企業双方に対して支援を行うというものです。これまで福祉サービスの中のことは勉強もしてきたつもりでしたが、一般社会における障害者雇用の実情を目の当たりにし、福祉従事者こそもっと勉強しなければと強く感じました。実習では、ワークホーム高砂が目指した障害者就労の完成形がありました。大人として働く事を当然の前提とし、働きやすい環境、分かりやすく整理された作業工程、仕事に見合った報酬が揃っていました。今後の障害者就労を考えていく機会となる研修でした。(楠)

有瀬さんお疲れさまでした！！

9月1日からA型の事業所へ移ることが決まった有瀬奈津芽さんを送る会を8月31日におこないました。6月の藤野さんに引き続き、新しい仕事に挑戦すると決めた奈津芽さんは本当にかっこいいと思います。2022年の9月にワークホームに戻ってきて2年間、たたみ班やタオル班で安定した仕事をこなし、他の利用者さんとも仲良くいつも笑顔でお話されている姿が印象的です。本当に急な別れだったので少し寂しさはありますが、奈津芽さんなら次の事業所でもしっかりと働けると信じています。彼女のこれからの成長と活躍を心から応援しています！(重田)



～全国社会就労センター総合研究大会 in 大分～



9月14日～15日、亀山、吉中が参加させていただきました。2人とも初参加。大会も4年ぶりの対面開催ということで、約400名の参加がありました。

主催である全国社会就労センター、日本セルフセンターの方々の「障害者の働く場を守り、拡大していく」、そんな使命感をひしひしと感じました。

国連 権利委員会の指摘[シェルタードワークショップ(A型、B型事業所等)の段階的廃止]について、日本にはA型、B型事業所の利用者が40万人おられ、「働く場を失ってしまわないか？」という問題提起がなされました。

一方で、<障害者雇用代行ビジネス>が「雇用率だけを買うビジネスになっていないか？」という問いかけもあり、自身の思想を磨いていく必要性を感じて帰路につきました。(亀山)

【参考】国連 権利委員会の日本への指摘

日本のシェルタードワークショップ(A型、B型事業所等)について、「特別な場」として懸念し、開かれた労働市場への「移行の加速化」を求め、必要な措置「労働市場(主流の場)での支援充実、合理的配慮、予算の展開、関係者の研修、国家計画など」に取り組む事を勧告された。



月刊「ワークホームだより」11月号

発行:2023年 10月 25日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



楽しかった久しぶりの奈良旅行

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

9月23日土曜日、利用者と職員が全員参加して4年ぶりに旅行行事を実施した。「秋の奈良を楽しむ！」をテーマに、グループに分かれて平城宮跡や金魚ミュージアムを見学し、鹿と触れ合いながら春日大社から奈良公園まで散策した。前日までは、「いったい秋はいつ来るのか」と思うほど夏のような気候が続いていたが、当日は気温も少し下がりさわやかな秋晴れの旅行日和で写真を撮ったりお土産を買ったりしながら楽しく充実した一日を過ごした。

新型コロナの影響で一泊旅行ができない日が続き、また、ワークホームの作業日が週6日から5日に変更したことも影響して作業以外の活動がほとんどなくなっていた。作業のすき間時間を見つけて文化活動を行い、通所日に位置づけた土曜日を利用してスポーツを楽しんだりしているが、日常的に余暇時間がとれない課題が今のワークホームにはある。そうした中での奈良旅行であったから、利用者さんの表情は作業の時とは全く異なっていた。どことなく穏やかであり作業の場面では見せない「ほんわか」とした雰囲気が漂っていた。作業時の真剣さの対極にある利用者さんの「余暇の顔」を見ながら、作業と余暇のメリハリが大事だと改めて感じた。

来年度は、是非とも一泊旅行を復活させたいと思う。作業を一生懸命に取り組み、慰安旅行的な行事として位置づけられたら良いのではないかなと思う。できれば、利用者が参加する「旅行企画委員会」を組織して、利用者を前面に出して職員が裏方で支えるような旅行に出来れば面白いのではないかなと思う。そのためには、作業だけに追われるのではなく、日常の中に多少のゆとり時間を確保することがテーマとなる。作業については、当面はワークの運営方針のもとで頑張ってもらうことになるが、余暇の過ごし方については、利用者さんの意思を引き出す支援に力を注がなければならない。実は、こうした取り組みは、定型の作業支援よりも難しく、職員の支援力が求められる。職員の成長を促すためにも、「非日常」に対する支援力を付けなければならないのではないかなと思う。

ところで、今回の奈良旅行の最大の成果は、誰一人として新型コロナに感染せずに日常の作業に戻れたことである。新型コロナ、インフルエンザ、アデノウイルスなど様々な感染症に留意しながら、大いに働き、大いに余暇を楽しむワークホームであり続けたいと思っている。

～ 11月おしらせ ～

11月2日(木) フラッシング指導

11月8日(水) 工賃支給日

※工賃支給日(毎月第2水曜日)については、16時30分まで作業を行いますので、お迎えの方は17時にお願いします。

11月16日(木)～19日(日) ぼんたん・ゆうあい作品展

場所:イーグレ姫路

※11月16日と11月17日は2班に分かれて利用者さんと職員で見学に行きます。

いなみ野特別支援学校の生徒さんが来訪!



10月6日(金)、いなみ野特別支援学校中部2年生と担任の先生方約40名がワークホームにお見えになり作業体験などを行っていただきました。最初に、楠支援員がワークホームの事業説明を行い、作業場では吉中支援員がクリーニング作業の説明を行いました。また、作業体験として防水シートを畳んでもらい、利用者さんも一生懸命働く普段どりの姿をみていただけたので、いつもの雰囲気が伝わったのではないかなと思いました。今回見学に来られた生徒さんの中から、将来ワークホームと一緒に働ける方ができることを願っています。(長瀬)

保護者研修会 IN 愛心園

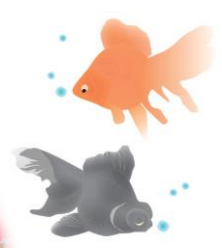
9月30日(土)、保護者会の研修会で上郡にある愛心園へ行ってきました。コロナ禍では他施設への見学研修会ができなかった為、4年ぶりの施設見学会となりました。愛心園は2021年に建て替えを実施し、新しい建物と古い建物が共存する形でした。保護者の方も住まいには関心が高く、特にグループホームの見学では積極的に質問する姿が見られました。帰りに「そうめんの里」で昼食を食べましたが、保護者の皆様と顔を合わせてゆっくりとお話する機会が少なくなっていましたので、職員にとっても有意義な施設見学会となりました。(楠)



今月の担当は、花岡 でした。



やっと行けた！ 念願の日帰り旅行 IN 奈良県



平城宮跡歴史公園

上手にでき
ました♪



9月23日に奈良へ日帰り旅行に行ってきました。午前中は金魚ミュージアムと平常宮跡に分かれて見学をしました。午後からはみんなで春日大社に行き、奈良公園を散策しました。たくさんの鹿と触れ合い、自分でお土産を選んで買われていました。仕事場とは違った表情をたくさん見ることができました。(野村)

奈良公園



鹿さんかわ
いい〜♡

園長と笑顔
でピース♪

何を願って
いるのかな？



金魚ミュージアム



月刊「ワークホームだより」12月号

発行:2023年 11月 24日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com

地域課題こそが福祉ニーズ



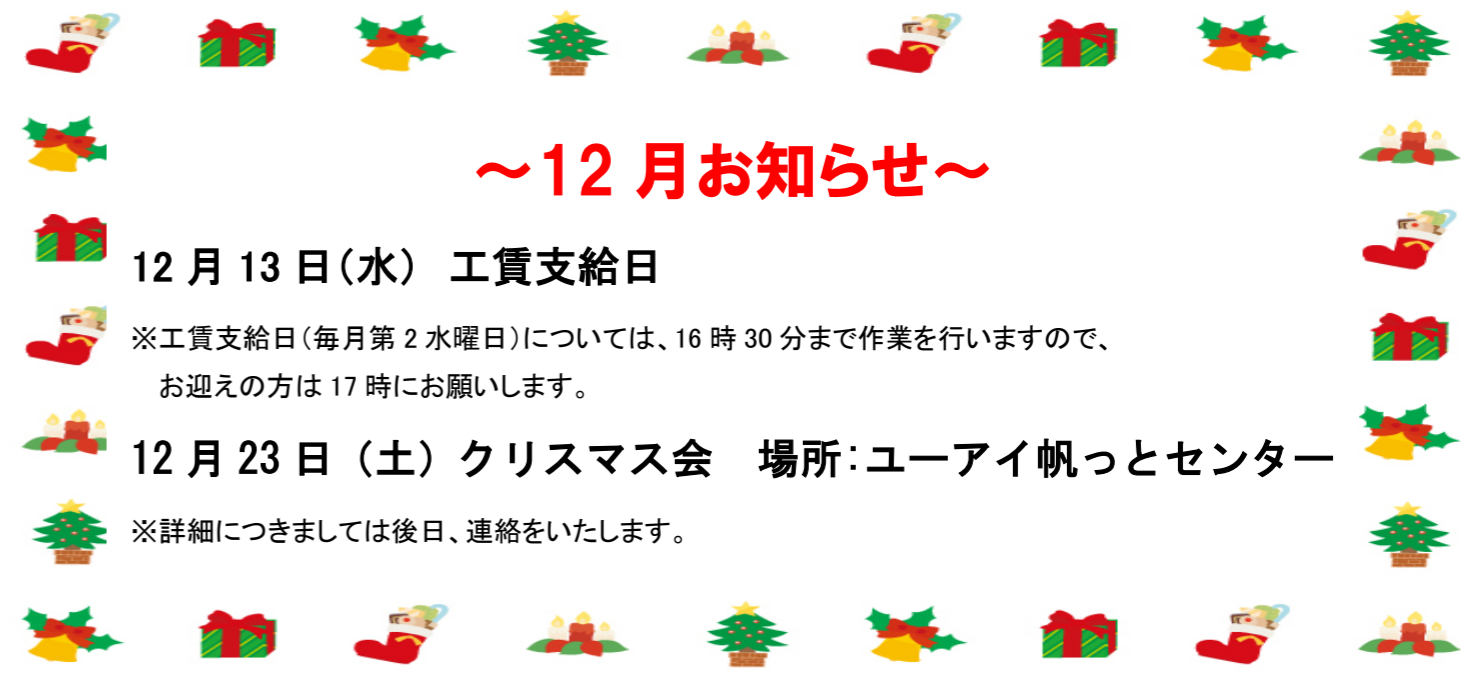
ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

奈良県に「社会福祉法人青葉仁会」という生産活動と就労支援に大変熱心に取り組んでおられる法人があります。10月11日と11月15日、兵庫県知的障害者施設協会生産活動・就労支援部会が主催する「先進地訪問事業」の一環として、ワークホーム高砂と納豆工房なっとこちゃんの職員延べ12名がレストランやカレー工場、パン工場、ブルーベリー農園、サツマイモ農園、石鹸製造、木工製作所などを見せていただき、また、榊原理事長さんから法人理念や事業展開の考え方について講義を受け大変得るところが大きかったので報告します。

青葉仁会の法人本部は奈良県東部の柚川町（そまがわちょう）という標高500m近い山々に囲まれたところにあります。法人では、この地域を「東部地域」と位置づけ、大阪府との県境である生駒市周辺を「西部地域」と位置づけて大きく二つの拠点で事業を展開しています。10月11日は東部地域を、11月15日は西部地域を見学させていただきました。

本部のある東部地域周辺は、山林と田畑ばかりで「限界集落」を絵で描いたような地域でした。法人では、山林や休耕田を買い取り、大きな廃校なども買い取って事業を展開していました。かつては農林業で栄えた地域とのことでしたが、今は放置された山林と耕作放棄地をどうするかが地域の大きな課題であるとのことでした。少子化と高齢化が進み、法人はその地域課題こそが事業ニーズだと受け止め、廃校を整備してカレー工場に作り替え、レトルトパック加工をして東京など全国へ出荷していました。もちろんカレー工場の労働者は障害者でワークと同様に自閉症の方がたくさん働いていました。また、休耕田を利用して米作や野菜作りを行っており、そこで作った野菜などをレストランのランチとして提供するとともに、コメやブルーベリーを加工してお酒にして出荷するなど、六次産業化に熱心に取り組んでいました。そして、ブルーベリーについては観光農園として位置付け、観光客の誘致を行い地域の活性化にも一役かっているとの印象でした。放置された竹林の竹を粉碎して竹和紙づくりに組み込み、職員の名刺はその和紙で作られていました。

11月15日に訪問した西部地域は、大阪のベッタタウンとして戸建ての住宅が広がる生駒山周辺で事業を展開していました。その地域にも少子高齢化の波は押し寄せていて、シャッター通り、スーパーの撤退、空き家の増加など日本の縮図がそこにもありました。



～12月お知らせ～

12月13日(水) 工賃支給日

※工賃支給日(毎月第2水曜日)については、16時30分まで作業を行いますので、お迎えの方は17時にお願います。

12月23日(土) クリスマス会 場所:ユーアイ帆っとセンター

※詳細につきましては後日、連絡をいたします。

小南さん 全国大会出場！！

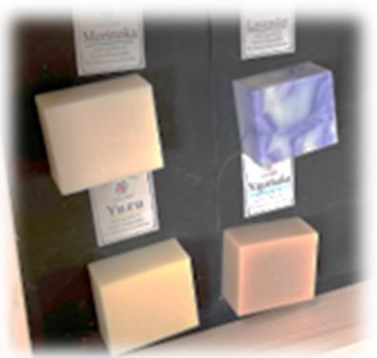
全国障害者スポーツ大会が今年は鹿児島で10月28日～10月30日まで開催されました。ワークホームから小南さんが出場。1500メートルは惜しくも5位でしたが、400メートルでは見事に銀メダルを獲得しました。ワークホームへ通所してすぐに齋藤施設長をはじめ、たくさんの職員へ元気よく報告しに来てくれました。小南さん、本当にお疲れさまでした！そして、おめでとうございます！！（花岡）



法人は、その地域課題を福祉ニーズと捉えてスーパーの跡地でパン工場とベーカリーショップ、生活用品を扱うショップを運営していました。パンについては、ショップで売るだけではなく冷凍生地を東京に出荷しているとのこと、東部地区のお酒や竹和紙細工、木工製品なども西部のショップで販売していました。また、生駒山麓公園のレストラン運営や植栽、環境整備なども行っていました。

青葉仁会の特徴は、地域課題こそが福祉ニーズであり利用者の働く場を創造する鍵がそこにはあると受け止めている点にあります。そして、障害者の日中活動の充実と生活の安定を事業展開の中心に置き、暮らしの場であるグループホームでは100名を越す利用者が地域生活をされていました。「暮らしと労働の統一的支援」というワークホームが理想とする絵が具体的に大きく描かれていました。

利用者の高齢化と重度化の中でワークホーム高砂のあり方が問われています。今後のあり方を考え具体的に考えるためのヒントが得られた。今回の訪問は、私だけではなく参加した職員たちにも大きな刺激になったのではないかと思います。



今月の担当は、野村朋成でした。



食欲の秋！稲刈り体験&バーベキュー！！

10月29日、前橋農園さんのご協力により保護者会と共催で稲刈り体験とバーベキューを行いました。稲刈り体験では、前橋さんのご指導もありみなさん上手に鎌を扱って稲を刈ることができました。コンバインに乗車しての稲刈りもさせていただき、とても貴重な体験となりました。自分たちで植えた稲を収穫する楽しさや喜びを感じていただけたのではないかと思います。

バーベキューでは保護者会役員の方が中心となって準備をさせていただき、お肉や野菜、焼きそばに海鮮と、とても豪華な昼食になりました。新米もいただき、「ご飯がいちばんおいしかった！」という方も多かったです。ご飯はあっという間になくなってしまいました。またこのような経験ができればいいなと思います。前橋さん、保護者の皆様、ご協力本当にありがとうございました。

(新山)



芸術の秋！コロナの壁ぶっ壊したゾ！！

11月16(木)から19日(日)までイーグレ姫路で「ばんたん・ゆうあい作品展」がありました。ワークホームからはコロナ禍で使用していたアクリルパネルを使ったステンドグラス風の作品をみんなで制作して出展しました。作品題名は「コロナの壁 ぶっ壊したゾ！」。せっかくなので16日の午後と17日の午前作業を少し抜けて見学をしてきました。ほかの事業所の作品もとっても素敵で、皆さん楽しそうに見学しておられました。今後も余暇活動を充実させるため、色々な行事に積極的に参加していきたいです。(重田)

